

不妊治療の保険適用についての
当事者から見た現状
～アンケート調査より～

2023年11月

NPO法人Fine

不妊治療の保険適用についてよかったこと

- 長らく続いていた「高額な不妊治療の経済的負担」が、保険適用により大きく軽減された
- これまでは治療費がネックで治療を躊躇していた（特に若い世代の）当事者が、早期に医療機関にかかることができるようになり、妊孕性が高い状態で治療に進むことができる
- 不妊治療が疾病における治療であるとの認識が広がり、不妊治療への理解が社会に広まりつつある

アンケート調査：

保険適用後の不妊治療に関するアンケート 2022

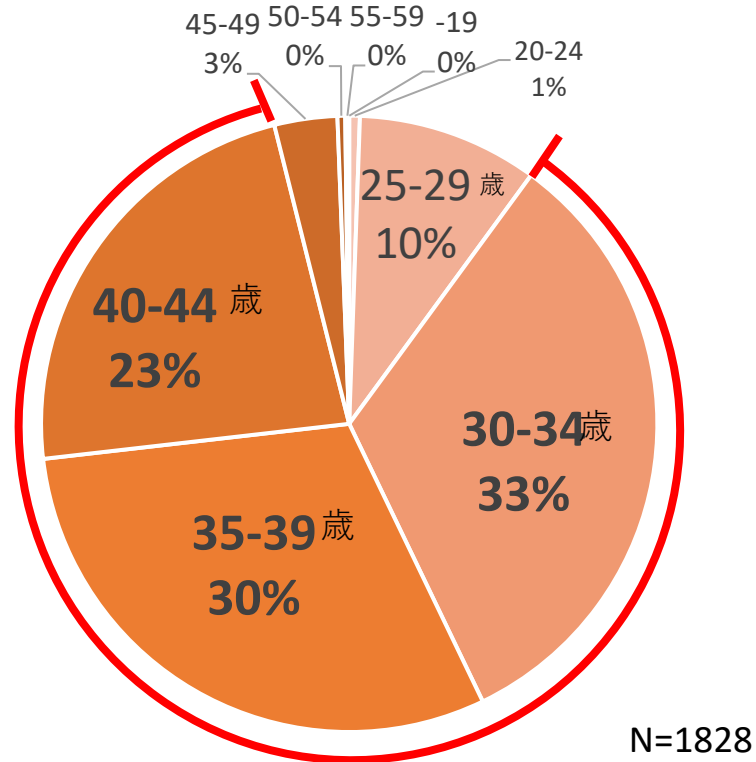
- 調査目的

保険適用後の不妊治療を受けている患者の現状を把握し、よりよい制度にするためにはどのようなサポートが必要か明確にするため。また患者一人ひとりが納得のいく治療を受けられるよう、治療環境の向上を図るため。さらにアンケート結果から当事者の声をまとめ、国に政策提言や要望書等を提出するため。



- 調査期間 2022年7月1日~2022年10月10日
- 調査方法 WEB アンケート。自由回答を含む 25 問
- 対象者 不妊治療・不育治療を受けている(またはこれから受ける)すべての方
- 回答数 1,988

アンケート回答者の年齢

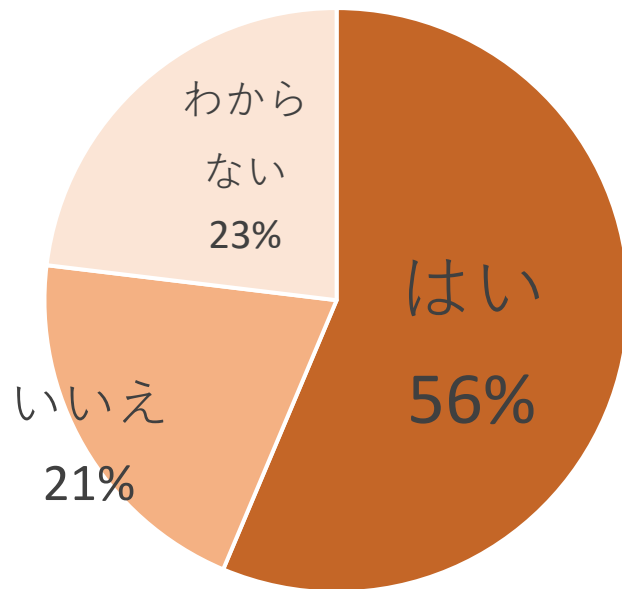


当事者の年齢は
30歳から44歳

83%

Fine実施「保険適用後の不妊治療に関するアンケート 2022」結果より

今、受けていたい治療を受けられていますか？

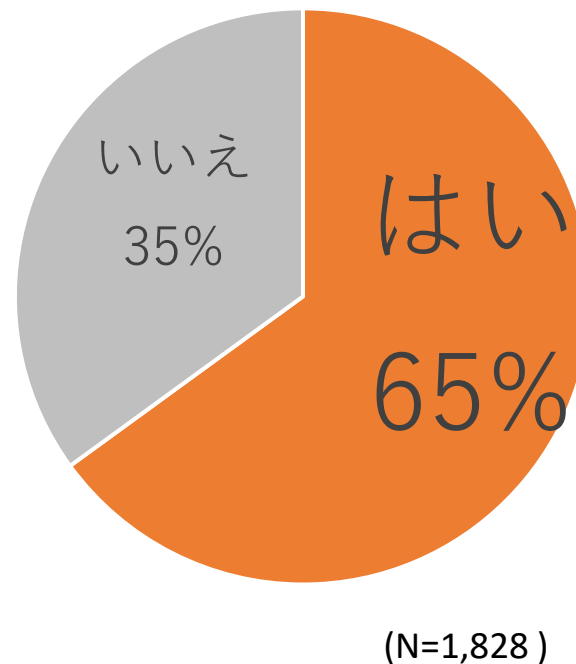


受けていたい治療が
受けられている

56%

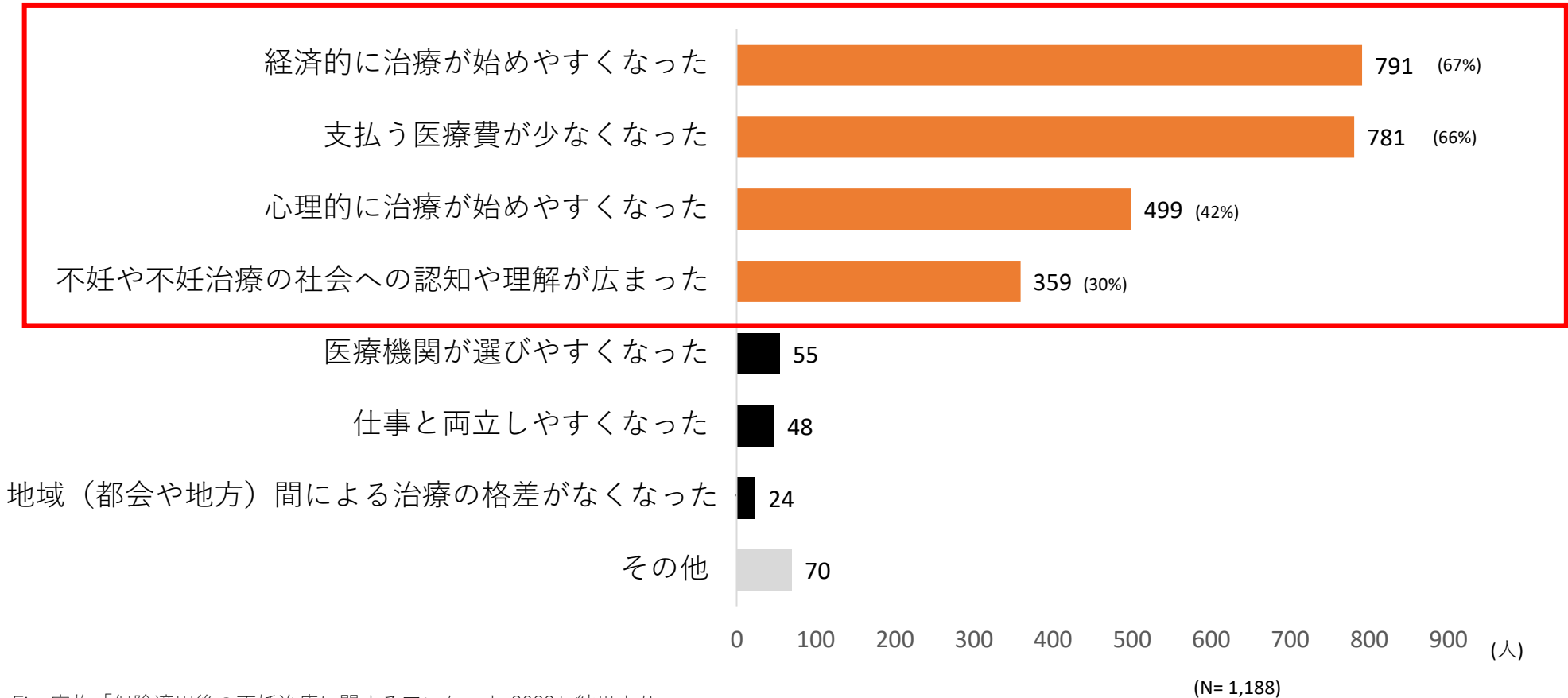
Fine実施「保険適用後の不妊治療に関するアンケート 2022」結果より

保険適用になって「良くなった」と感じる？



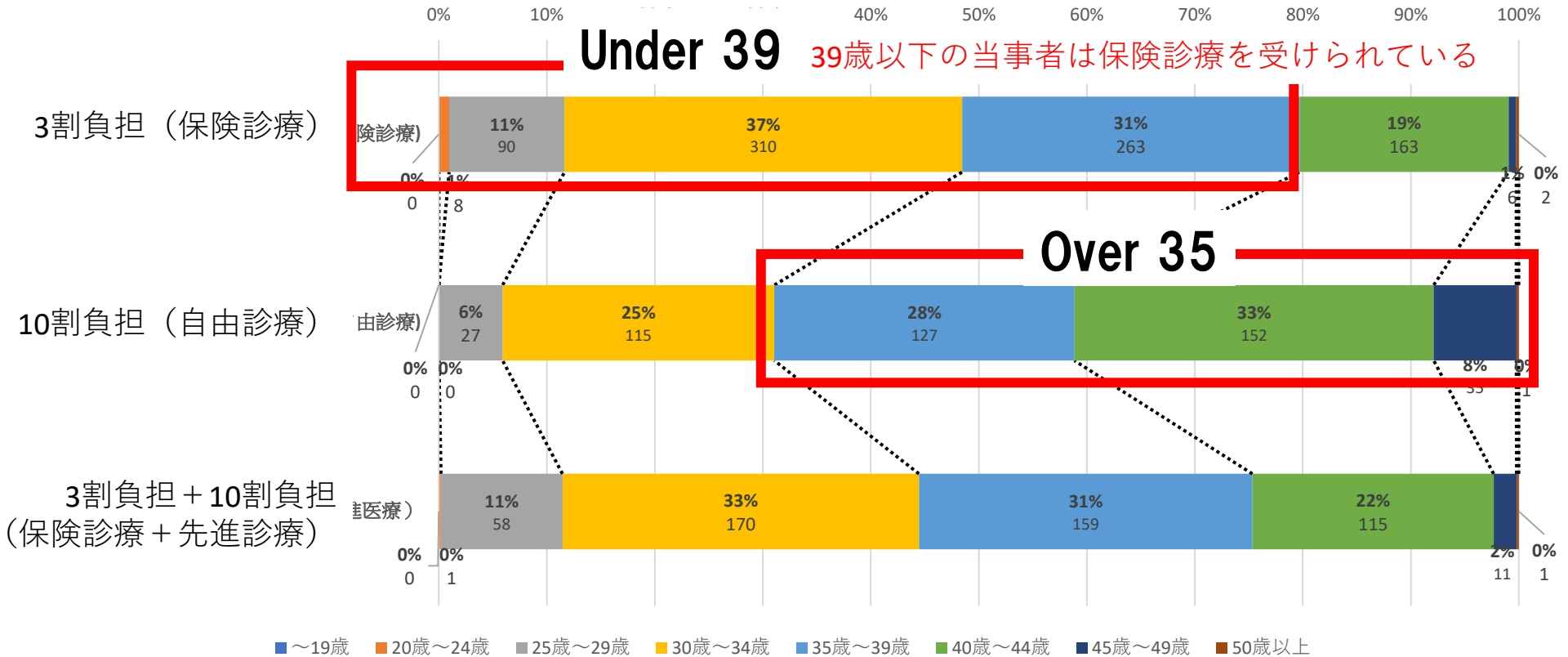
Fine実施「保険適用後の不妊治療に関するアンケート 2022」結果より

保険適用になって良くなったと感じること



Fine実施「保険適用後の不妊治療に関するアンケート 2022」結果より

自己負担金額 × 年齢は？



Fine実施「保険適用後の不妊治療に関するアンケート 2022」結果より

よくなったと思うこと(アンケート記述欄より)

経済的負担が減った

保険適用で高額療養費制度が使える度に**支払う金額が減った**点はよかった。
(30-34歳 栃木県他多数)

助成金の回数制限の対象が採卵も含まれていたのが、**保険適応だと採卵のみは対象外で、移植で数えられるようになった**こと。採卵でつまづくので、助かった。
(30-34歳 兵庫)

生命保険（または医療保険）が適用になり、**保険金が降りるようになった**。
(25-29歳 長野県他多数)

助成金はどうしても振り込みまで3ヶ月と時間がかかってしまい、治療はずっと進むので、**初めから支払いが軽くなった**保険適用はありがたいです。(35-39歳 大阪府)

一回に支払う医療費が減った為、気持ちに余裕が出来た。
(25-29歳 愛知県他多数)

高価だった薬が保険適用で使えるようになった。
(40-44歳 愛知県)

不妊治療が受けやすくなった

料金が一律になり**わかりやすくなった**。(40~44歳 新潟県)

経済的な面もあり高度治療に賛成ではないパートナーが、保険適用できるとこまでやろうと言ってくれたことにより**心理的に楽になった**。(35-39歳 愛知県)

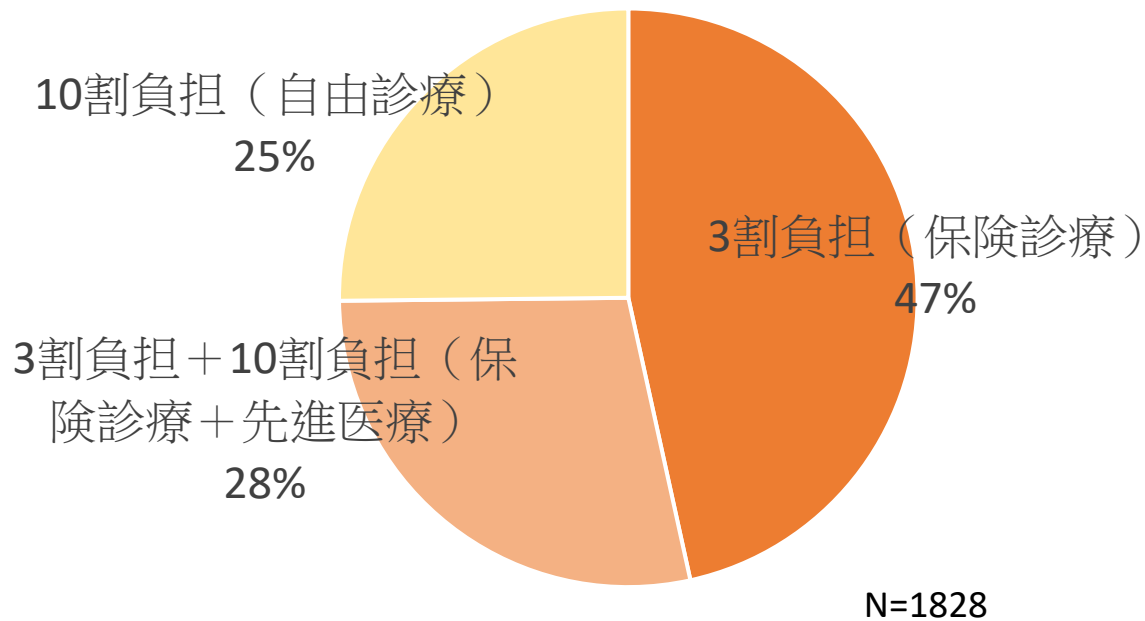
現在体外受精をしている。**保険適用でなかったら体外受精まで進めなかった**。(25~29歳 東京都他多数)

統一した検査を受けることで、それまで判明していなかった夫の病気（甲状腺ホルモン低下症）がわかり、治療を受けることができた。精子の正常形態率が多少改善した。
(40-44歳 神奈川県)

体外受精に進む**ハードルが下がった**。(25-29歳 千葉県他多数)

一人いるから出来なくてもまあ良いかと思っていたが、**治療のステップアップに踏み切れた**。
(30-34歳 栃木県)

今受けている治療の自己負担額の割合

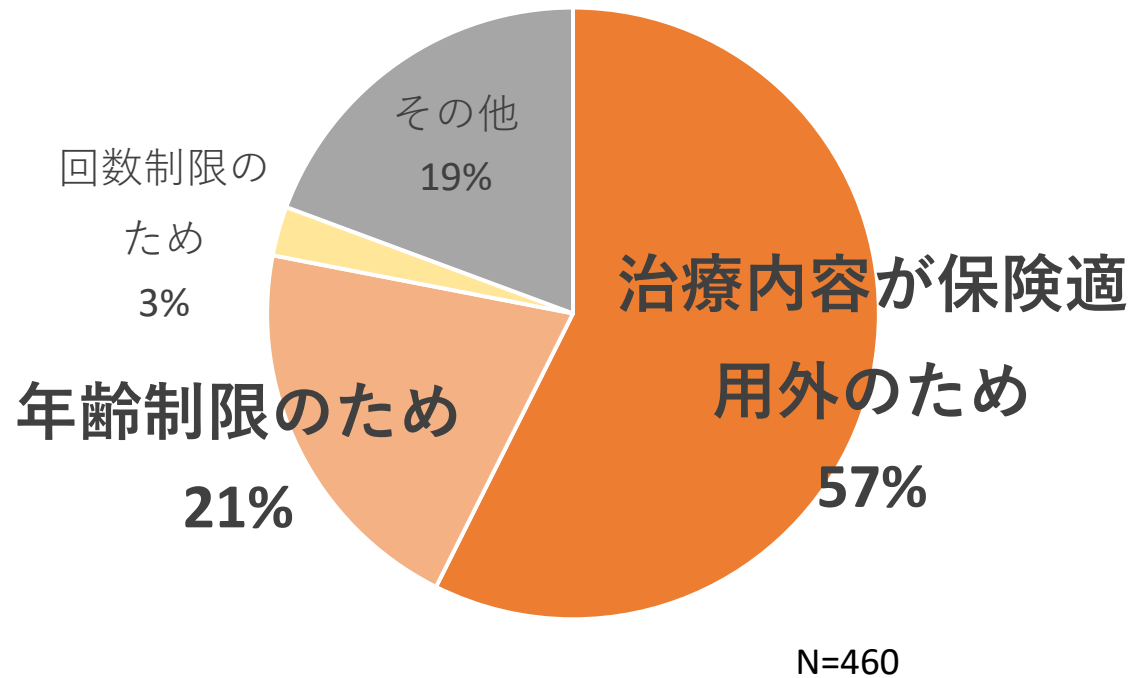


全額保険診療を
受けているのは

47%

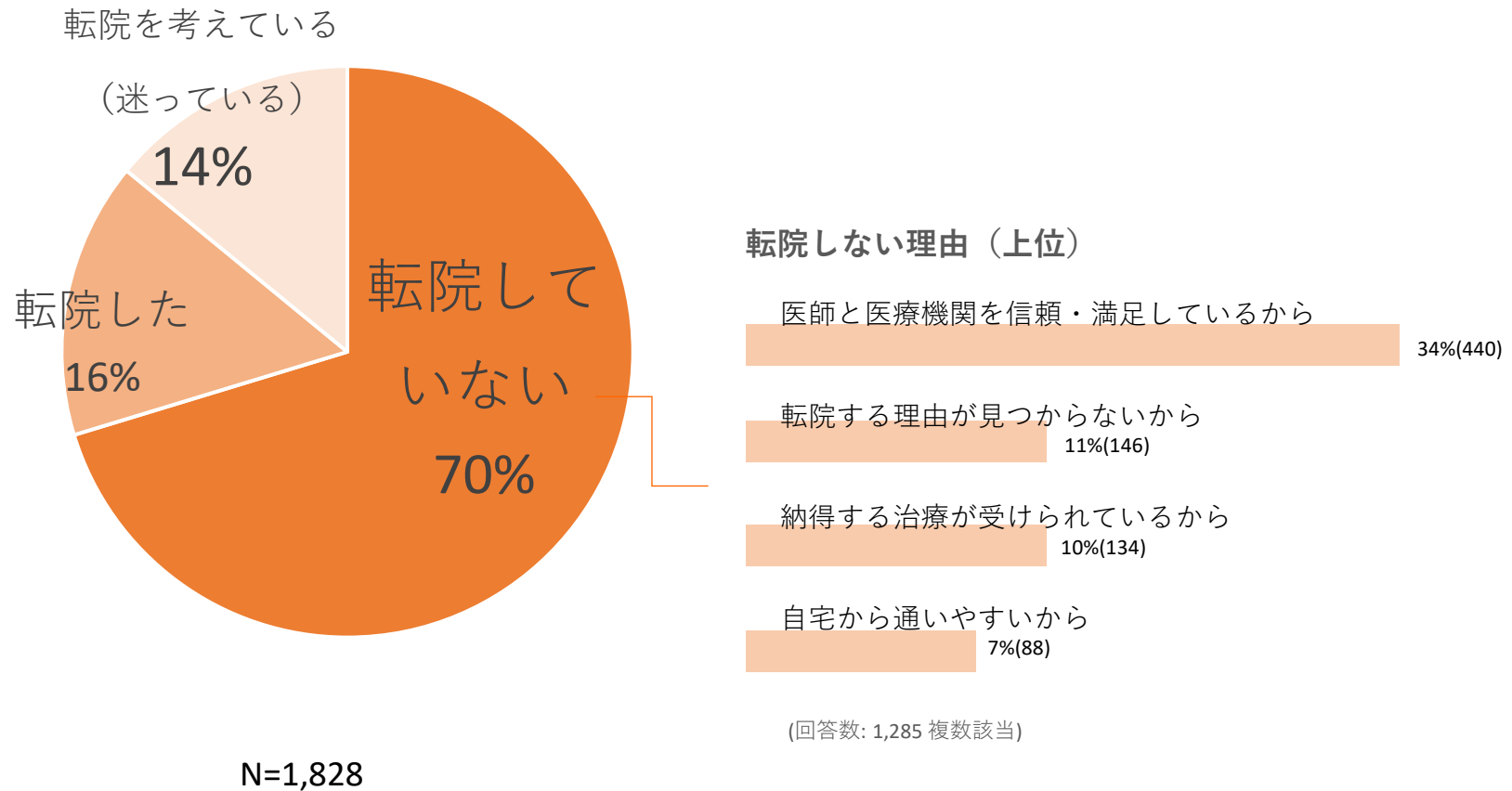
Fine実施「保険適用後の不妊治療に関するアンケート 2022」結果より

今受けている治療が 10割負担（自由診療）である理由

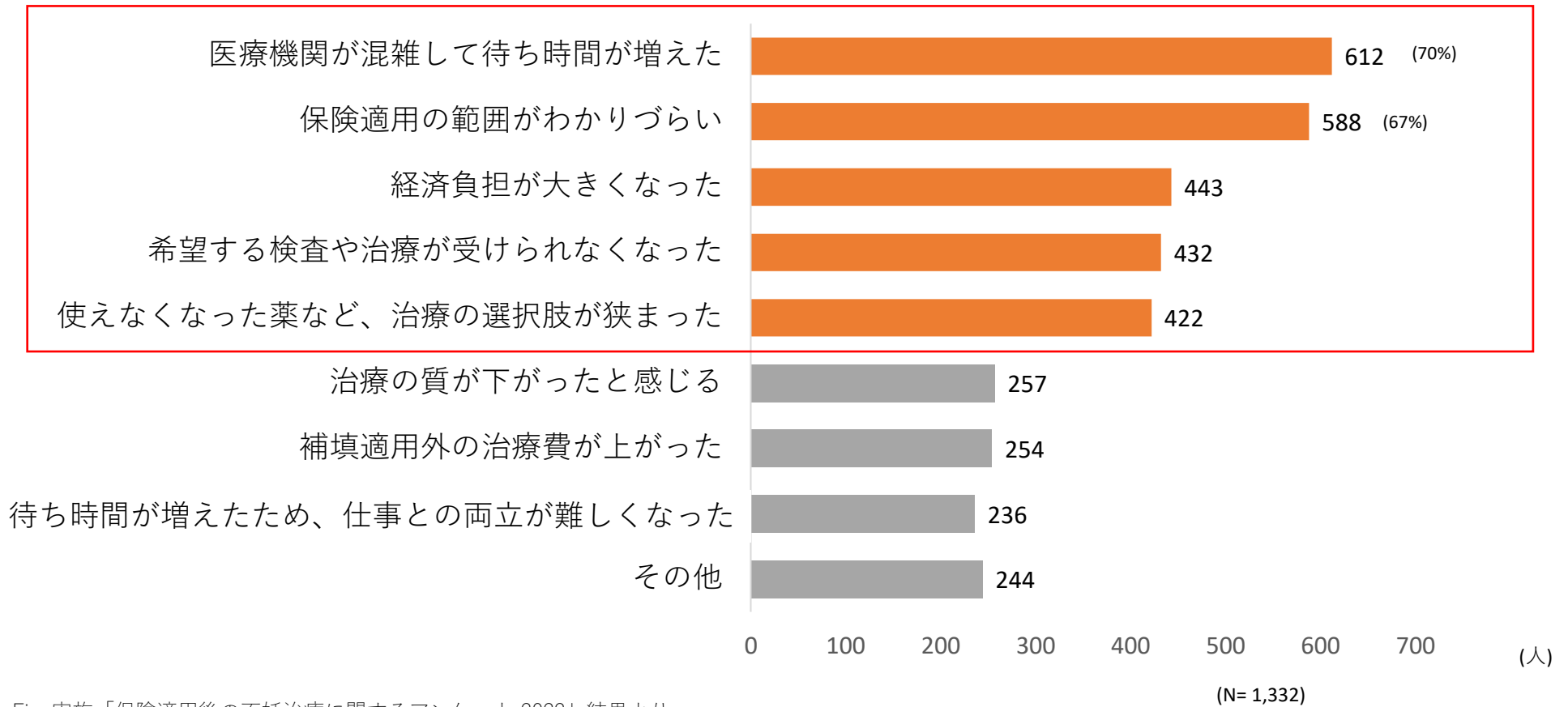


Fine実施「保険適用後の不妊治療に関するアンケート 2022」結果より

保険適用をきっかけに転院した？



保険適用になって悪くなったと感じること



Fine実施「保険適用後の不妊治療に関するアンケート 2022」結果より

診療報酬改定に向けてのお願い

他の疾病同様に、

年齢制限、回数制限の撤廃（もしくは緩和）をお願いします。

これは私たちのもとに届いた、不妊治療に悩んだ体験者たちの声の一部です。

- 回数制限があることにより、焦りと不安が強まり精神的なストレスが増えています。（25～29歳）
- 不育症であるため、妊娠12週に至らずに流産してしまうことが多いため、6回の回数制限がリセットされず、回数制限が精神的に辛いです。（30～35歳）
- 体外受精を6回しても授からなかったらどうしようかと不安です。体外受精を7回以降するのは、経済的にも精神的にも負担が大きくて難しいです。（25～29歳）
- 不妊治療で一人目を授かりましたが、2人目を希望しており制限や条件を撤廃して欲しいです。（35～39歳）

他の一般的な疾病には無い制限や条件が無くなることで、年齢にかかわらず、子どもを望むすべての不妊当事者にとって、経済的、精神的負担の軽減につながります。